

第67期 報 告 書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

- 1P 株主の皆様へ
グループ総合力の発揮により
顧客が求める価値を提供する!
- 3P 進化し続けるOUGグループ
(株)シヨクリュー宇部工場の製品が、今年2月に
水産庁の「ファスト・フィッシュ」商品に認定されました。
- 5P 財務の概況
- 7P 会社情報
株式の状況
- 8P Information
株主優待制度



代表取締役社長

谷川 正俊

平素は格別のご高配を賜り厚く
お礼申しあげます。

さて、当社第67期（平成24年4月
1日から平成25年3月31日まで）の
事業および財務の概況のご報告を
申しあげます。

平成25年6月

事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要などを背景に景気は緩やかな回復基調にありましたが、海外経済の減速等を受けて持ち直しの動きは弱い状態で推移いたしました。昨年末以降は、政府の金融・経済対策に対する期待感から円高修正や株価上昇が進み、また、海外経済の持ち直し等を受けて、企業の生産活動や輸出が底入れし、景気は緩やかに持ち直しつつありますが、先行きは不透明な状態であります。

また、雇用・所得環境は一部に改善の動きがみられましたが、個人消費は総じて低迷したまま推移いたしました。

水産物流通業界におきましては、消費者心理は株価上昇や、雇用・賃金増への期待から上向いてきているものの、消費者の節約志向は依然として強く、水産物に対する購買意欲は低迷したまま、販売競争が激化するなど厳しい経営環境下にありました。

このような環境にあって、当社グループは、全体最適のグループ経営のもと、販売力・調達力の強化、顧客起点志向の追求、地域に対応したソリューションの提供、業務の効率化、諸経費の節減などに注力し積極的な事業活動を展開してまいりましたが、当連結会計年度の売上高は3,039億73百万円（前年同期比94.8%）となりました。損益面では、売上総利益は209億55百万円（前年同期比92.4%）となり、営業損失2億86百万円（前年同期は営業利益10億17百万円）、経常損失2億98百万円（前年同期は経常利益12億96百万円）、当期純損失6億37百万円（前年同期は当期純利益13億53百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

<水産物荷受事業>

中央卸売市場を核とする集荷販売機能をもつ水産物荷受事業の売上高は取扱数量の減少、販売単価の低下により1,909億

グループ総合力の発揮により 顧客が求める価値を提供する！

55百万円（前年同期比94.4%）、冷凍鮭鱒の市況下落などの影響による売上総利益率の低下および貸倒引当金繰入額の増加によりセグメント損失30百万円（前年同期はセグメント利益7億28百万円）となりました。

<市場外水産物卸売事業>

全国各地を網羅する販売拠点を活かした幅広い流通網をもつ市場外水産物卸売事業の売上高は消費低迷、販売競争の激化などによる販売数量の減少などにより1,115億8百万円（前年同期比95.1%）、間接経費全般の節減に努めましたが売上高の減少によりセグメント損失44百万円（前年同期はセグメント利益2億43百万円）となりました。

<養殖事業>

九州、四国にて、ハマチ、ブリ、マグロの養殖を展開する養殖事業の売上高は、天然ブリの豊漁、全国養殖ブリ、ハマチの在池量の増加に加え、競合する魚種（サーモン、カンパチなど）の市況低迷の影響を受け、養殖ブリの販売単価の下落により59億39百万円（前年同期比84.3%）、給餌効率の改善などに努めましたが販売単価の下落を吸収できずセグメント損失3億41百万円（前年同期はセグメント利益26百万円）となりました。

<食品加工事業>

消費地にある食品加工センターにて水産加工、量販店向けにおにぎり等米飯加工などを行う食品加工事業の売上高は、平成23年9月より生産を開始した定塩鮭冷凍製品の販売が寄与し、また、前期末にて連結子会社が1社増加したことにより43億11百万円（前年同期比122.3%）、米などの原材料価格の高騰や販売価格低迷などによりセグメント損失1億50百万円（前年同期はセグメント損失2億17百万円）となりました。

<物流事業>

物流センターにおいて、搬入された水産物等を量販店等の配送先別に仕分け、自社便にて配送を行う物流事業の売

上高は、新規顧客の開拓に努め22億23百万円（前年同期比103.7%）、セグメント損失34百万円（前年同期はセグメント損失83百万円）となりました。

<その他>

グループの水産物流通を補完するリース事業等その他の売上高は42億24百万円（前年同期比96.7%）、セグメント損失12百万円（前年同期はセグメント損失8百万円）となりました。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、経済対策の効果で景気回復に期待がある反面、海外景気の下振れリスクもあり、先行き不透明な状況にあります。

また、水産物流通業界におきましては、消費者の節約志向は依然として強く、水産物に対する購買意欲は低迷したまま、販売競争が激化するなど厳しい経営環境下にあると予測されます。

当社グループは、コア事業である「水産物荷受事業」および「市場外水産物卸売事業」、また、コア事業を支える「養殖事業」の事業基盤の強化を図るとともに、グループ内の加工機能、物流機能を最大限活用し、グループ総合力の発揮により顧客が求める価値を提供してまいります。また、ガバナンスの強化・充実に努め、グループ情報基盤の整備や人材育成を推進し、全体最適経営の基盤を固め、業績の回復に努めてまいります。

当社グループは、生産者から消費者までの水産物流通トータルシステムである新しい水産物流通サービス業を創造し、消費者に安全・安心を提供することにより、社会に貢献することを通じて企業価値を最大化してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(株)シヨクリュー宇部工場の製品が、今年2月に水産庁の

■(株)シヨクリュー宇部工場の新製品開発

当社グループは、「水産物荷受事業」と「市場外水産物卸売事業」の2つのコア事業を中心に、「養殖事業」、「食品加工事業」、「物流事業」、「保険・リース事業」を加えた6つの事業を展開しております。

今回は、コア事業の一端を担う「市場外水産物卸売事業」を営む(株)シヨクリューの活動状況についてご紹介いたします。

日本人の「魚離れ」が進行するなか、水産庁は水産物の消費拡大を図ろうと、「魚の国のしあわせ」プロジェクトの一環として、働く女性を中心とする消費者に対し、手軽・気軽に美味しく食べられる水産物の加工食品を「ファスト・フィッシュ」商品として普及させる取り組みを始めました。「ファスト・フィッシュ」商品の選定にあたっては、手軽さ(料理時間や買い物時間の短縮が想定されるもの)・気軽さ(お手ごろ価格、適度な内容量)、今後の消費拡大が見込める商品で、原材料にこだわっていることなどが審査の基準となっております。

★旨みの秘訣はスーパーオーブンの過熱蒸気★

- ・スーパーオーブンにより、100℃の水蒸気をさらに加熱し、約300℃の過熱蒸気で素材を調理することができます。
- ・過熱蒸気は、無酸素状態で効率よく加熱ができますので、衛生的で保存性の高い加熱調理品を製造することができます。
- ・スーパーオーブンは、焼く・蒸す・煮焼きなどの過熱調整を美味しく短時間でできる画期的なシステムです。

OUGグループ

- ◆ 水産物荷受事業 (株)うおいち
- ◆ 市場外水産物卸売事業 (株)シヨクリュー

OUGホールディングス(株)

- ◆ 養殖事業 (株)兵 殖
- ◆ 食品加工事業 関空トレーディング(株)
- ◆ 物流事業 舞洲流通センター(株)
- ◆ 保険・リース事業 (株)トップ
- ◆ ダイワサミット(株)
- ◆ (株)トウニチ水産



宇部工場(山口県宇部市)



スーパーオーブン(過熱蒸気調理器)



「ファスト・フィッシュ」商品に認定されました。

「Fast Fish」のロゴマーク



工場内の作業風景



宇部工場では、美味しくて、より利便性を求める消費者のニーズに応えるため、「煮付け美人」シリーズを開発しました。

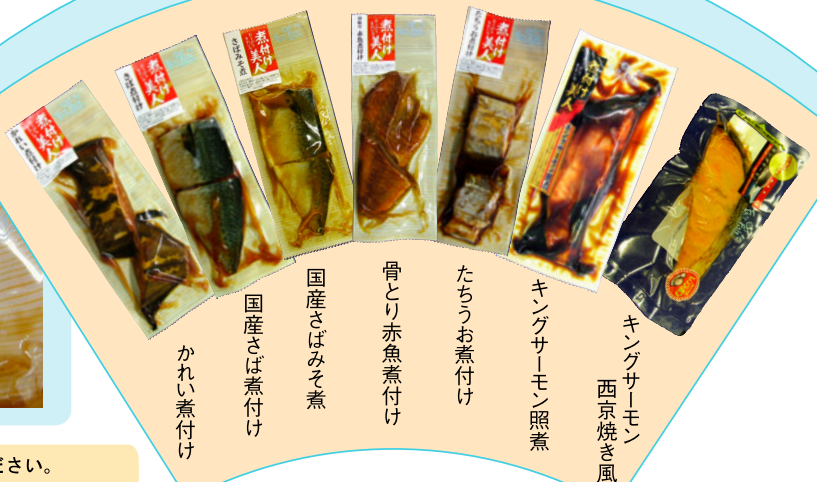
この「煮付け美人」シリーズは、「キングサーモン西京焼き風」と共に、本年2月に水産庁の「ファスト・フィッシュ」商品に認定されました。

この商品は「スーパーオープン(過熱蒸気調理器)」を使用することにより、製造過程で素材の旨みを閉じ込め、ふっくらとした食感を保ち、素材の持つ美味しさを引き出しました。

これらの商品は、調理も簡単で袋のままレンジで加熱するだけ、また、袋ごと湯煎するだけで美味しく食べられます。

今後は、このような消費者の求める価値を商品開発に採り入れ、ショクリュー各部門はもちろんグループ事業会社と連携をとり、拡販に努めてまいります。

「Fast Fish」認定商品(7品目)



かれい煮付け

国産さば煮付け

国産さばみそ煮

骨とり赤魚煮付け

たちうお煮付け

キングサーモン照煮

キングサーモン西京焼き風

同社の最新ニュースを発信しております。是非ご覧ください。

<http://www.shokuryu.co.jp>

財務の概況

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		(平成25年3月31日現在)	(平成24年3月31日現在)
資産の部			
流動資産		47,234	49,371
現金及び預金		1,794	2,182
受取手形及び売掛金		27,710	29,055
商品及び製品		16,785	16,958
仕掛品		1	0
原材料及び貯蔵品		119	128
繰延税金資産		457	655
その他		758	670
貸倒引当金		△ 392	△ 279
固定資産		21,746	20,968
有形固定資産		11,807	12,112
建物及び構築物		3,034	3,257
機械装置及び運搬具		1,000	1,061
工具、器具及び備品		324	220
土地		7,004	7,022
リース資産		443	550
無形固定資産		3,408	2,897
ソフトウェア仮勘定		3,274	2,747
その他		134	150
投資その他の資産		6,530	5,958
投資有価証券		5,613	4,908
関係会社株式		26	64
長期貸付金		100	100
破産更生債権等		1,598	1,789
繰延税金資産		80	105
その他		753	836
貸倒引当金		△ 1,642	△ 1,846
資産合計		68,980	70,340

(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		(平成25年3月31日現在)	(平成24年3月31日現在)
負債の部			
流動負債		44,924	41,791
支払手形及び買掛金		20,098	20,152
短期借入金		15,200	15,795
1年内返済予定の長期借入金		5,240	1,291
リース債務		715	707
未払法人税等		179	120
未払消費税等		119	186
賞与引当金		643	705
その他		2,727	2,832
固定負債		8,741	12,707
長期借入金		2,838	6,768
リース債務		1,756	1,967
繰延税金負債		691	477
再評価に係る繰延税金負債		376	380
退職給付引当金		2,475	2,450
役員退職慰労引当金		89	68
資産除去債務		153	150
負ののれん		—	42
長期未払金		31	38
その他		328	362
負債合計		53,665	54,499
純資産の部			
株主資本		14,828	15,788
資本金		6,495	6,495
資本剰余金		6,153	6,153
利益剰余金		2,424	3,382
自己株式		△ 244	△ 243
その他の包括利益累計額		486	46
その他有価証券評価差額金		805	374
繰延ヘッジ損益		12	△ 3
土地再評価差額金		△ 332	△ 324
少数株主持分		—	5
純資産合計		15,314	15,840
負債・純資産合計		68,980	70,340

注記事項 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務の概況

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		[自平成24年4月1日 至平成25年3月31日]	[自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]
売上高		303,973	320,787
売上原価		283,017	298,115
売上総利益		20,955	22,672
販売費及び一般管理費		21,242	21,654
営業利益(△損失)		△ 286	1,017
営業外収益		413	766
受取利息		5	11
受取配当金		118	119
負ののれん償却額		42	365
受取賃貸料		58	56
その他		188	213
営業外費用		425	486
支払利息		332	345
その他		93	141
経常利益(△損失)		△ 298	1,296
特別利益		75	138
受取和解金		60	—
固定資産売却益		15	—
投資有価証券売却益		—	138
特別損失		59	72
事務所移転費用		39	—
減損損失		17	—
投資有価証券評価損		—	53
固定資産除却損		—	19
その他		3	—
税金等調整前当期純利益(△損失)		△ 282	1,363
法人税、住民税及び事業税		163	75
法人税等調整額		196	△ 65
法人税等合計		359	9
少数株主損益調整前当期純利益(△損失)		△ 642	1,353
少数株主損失(△)		△ 4	△ 0
当期純利益(△損失)		△ 637	1,353

注記事項 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

当期(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成24年4月1日残高	6,495	6,153	3,382	△ 243	15,788
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△ 327		△ 327
当期純損失			△ 637		△ 637
自己株式の取得				△ 1	△ 1
土地再評価差額金の取崩			7		7
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△ 958	△ 1	△ 959
平成25年3月31日残高	6,495	6,153	2,424	△ 244	14,828

	その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	その他の包括 利益累計額合計		
平成24年4月1日残高	374	△ 3	△ 324	46	5	15,840
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						△ 327
当期純損失						△ 637
自己株式の取得						△ 1
土地再評価差額金の取崩			△ 7	△ 7		—
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	431	15		446	△ 5	441
連結会計年度中の変動額合計	431	15	△ 7	439	△ 5	△ 525
平成25年3月31日残高	805	12	△ 332	486	—	15,314

注記事項 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		[自平成24年4月1日 至平成25年3月31日]	[自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		1,810	921
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 587	△ 277
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,610	△ 797
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額		—	—
V. 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 387	△ 153
VI. 現金及び現金同等物の期首残高		2,167	2,314
VII. 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		—	6
VIII. 現金及び現金同等物の期末残高		1,779	2,167

注記事項 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社情報 (平成25年3月31日現在)

OUGホールディングス株式会社

会社概要

主要な事業内容 定款に定められた事業を営むこと、ならびに定款で定められた事業を営む会社およびこれに相当する事業を営む外国会社の株式もしくは持分を保有することにより、当該会社の事業活動を支配、管理することおよびこれに関連する業務を行うことを目的としております。

設立 昭和21年6月12日(創業 昭和22年10月)
資本金 6,495百万円
発行済株式総数 55,622,921株
従業員数 連結 1,320名 単独 34名

役員 の体制

取締役	代表取締役社長	谷川正俊
	取締役	村松保範
	取締役	増田安利幸
	取締役	三輪光卓郎
	取締役	薄波卓郎
	取締役	角田晴夫
監査役	常勤監査役	玉田耕也
	監査役	谷和道雄
	監査役	富田英孝 (社外監査役)
	監査役	和田徹 (社外監査役)
	監査役	伊藤博通 (社外監査役)
相談役	相談役	溝上源二
顧問	顧問	下川真二
執行役員	常務執行役員	原田史郎
	常務執行役員	中江一夫
	執行役員	岡田雅之

株式の状況 (平成25年3月31日現在)

株式の状況

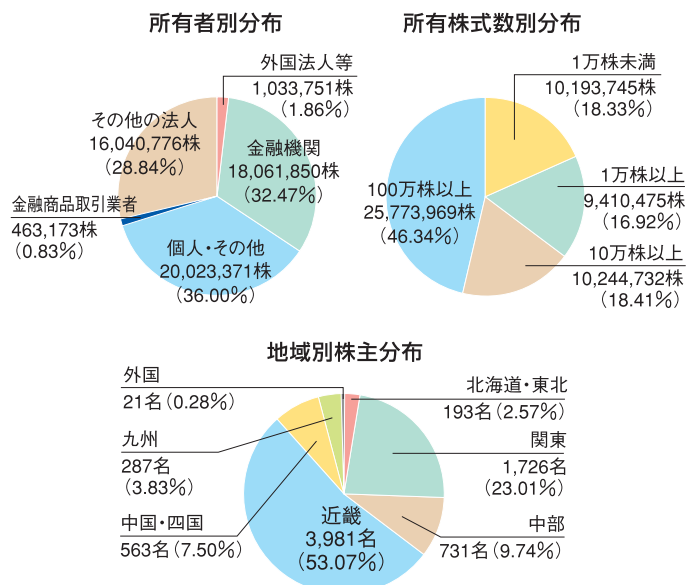
発行可能株式総数	209,159,000株
発行済株式の総数	55,622,921株
株主数	7,502名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 マルハニチロホールディングス	7,450	13.51
日本生命保険相互会社	3,680	6.67
農林中央金庫	2,636	4.78
株式会社 みずほ銀行	2,000	3.63
株式会社 りそな銀行	1,842	3.34
株式会社 三菱東京UFJ銀行	1,742	3.16
三井住友信託銀行 株式会社	1,600	2.90
三菱UFJ信託銀行 株式会社	1,519	2.76
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社 大丸松坂屋百貨店退職給付信託口)	1,150	2.09
丸大食品 株式会社	1,150	2.09

(注) 持株比率は、自己株式(488,597株)を控除して計算しております。

株式分布



◆ Information ◆

当社は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に保有していただける株主様の増加を図ることを目的として、株主優待制度を実施しております。

株主優待制度

(1) 対象株主様

毎年9月末日現在の株主名簿に記載または記録された、1単元(1,000株)以上の株式を保有していただいている株主様を対象といたします。

(2) 優待の内容

- 1,000株以上5,000株未満ご所有の株主様へ3,500円相当の水産加工品を贈呈
 - 5,000株以上ご所有の株主様へ7,000円相当の水産加工品を贈呈
- 数種類の品目よりお選びいただけます。

(3) 贈呈時期

毎年、12月上旬を予定しております。

昨年、ご好評いただいた優待の人気商品!!



輪島の朝 干物詰合せセット
(3,500円 相当)



サーモンセット
(3,500円 相当)



鮭一番
(天然まぐろセット)
(7,000円 相当)



汐紅鮭姿切
(7,000円 相当)

単元未満株式の買取請求について

(1) 買取請求について

単元株(当社の場合 1単元:1,000株)に満たない株式を、発行会社に対して市場価格にてその株式を買取るよう請求することができます。

(2) 買取請求の手続きについて

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、ご所有の単元未満株式が特別口座に記録されている場合は、特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。(株主メモをご参照ください。)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更等の各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続き用紙のご請求につきましては、三菱UFJ信託銀行（特別口座管理機関）の以下のお電話およびインターネットでも24時間承っております。
 - ・ 東京 TEL 0120-244-479 (通話料無料)
 - ・ 大阪 TEL 0120-684-479 (通話料無料)<http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

上場金融商品取引所	大阪証券取引所市場第一部 (証券コード 8041)
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.oug.co.jp

(注)

大阪証券取引所は、平成25年7月16日をもって東京証券取引所と市場の統合を行う予定のため、同日以降当社の上場金融商品取引所は東京証券取引所となります。

免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要因の変化により、異なる場合があることをご承知おください。

Web Information

当社ホームページでは、当社の最新ニュースを株主・投資家の皆様に向け、発信しております。IRニュースや決算発表を行うページ、グループ各社の紹介等、様々な情報を掲載しておりますので、是非ご利用ください。

TOP PAGE



COMPANY PROFILE



GROUP VISION



OUGホールディングス株式会社

〒553-0005 大阪市福島区野田2丁目13番5号
うおいちニッセイビル5階
TEL:06-4804-3031 FAX:06-4804-3145
URL <http://www.oug.co.jp>

<http://www.oug.co.jp>